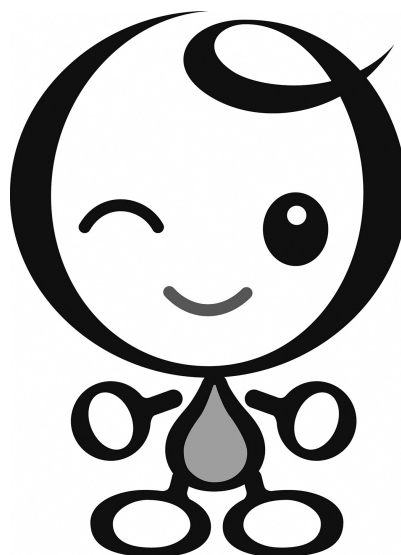


基本方針3 豊かな心と伝統・文化が薫るまち

◆【生涯学習・教育・文化・スポーツ】

- 3-1 学校教育の充実
- 3-2 生きる力を育む学びの充実
- 3-3 文化芸術資源を活用したまちづくりの推進
- 3-4 次代へ伝える文化財の保存・活用
- 3-5 スポーツ・レクリエーション活動の促進



3-1 学校教育の充実

【施策の方向性】

- ①「生きる」力を育み、社会変化に対応した教育や教育施策を推進します。
- ②子どもが安心して通える学校環境づくりのために、不登校やいじめ対策等の生徒指導と特別支援教育の充実に努めます。
- ③子どもが安心して生活できる社会づくりのために、家庭や地域、関係機関及び幼保小中の連携に努めます。
- ④ICT等の学習環境整備に努め、学校施設等の安全管理及び学校給食センターの衛生管理を徹底します。

【担当部署】 学務課

【施策の成果指標】

指 標		現 状 値	目 標 値
①学校での勉強に一生懸命取り組んでいる児童・生徒の割合	小学生	83.8%(2018年)	89.0%(2022年)
	中学生	87.1%(2018年)	92.0%(2022年)
②授業が分かる児童・生徒の割合	小学生	86.3%(2018年)	91.0%(2022年)
	中学生	80.1%(2018年)	85.0%(2022年)
③家庭学習に取り組んでいる児童・生徒の割合	小学生	85.1%(2018年)	90.0%(2022年)
	中学生	90.2%(2018年)	95.0%(2022年)

【現状と課題】

- ① 学校教育の内容の充実はもとより、教育相談室の運営による学校不適應への対応や教育相談の充実に努めています。
- ② 安全で快適な学校施設の維持・管理に努めています。
- ③ 特別に支援を要する子どもへの支援体制の充実に努めています。
- ④ 情報化・国際化に対応した教育や幼保小中連携を推進しています。
- ⑤ 不登校になる児童生徒が依然として存在し、教育を支える専門員(特別支援教育支援員^{※14}や教育相談員等)の不足、学校施設の老朽化等、様々な課題を抱えています。
- ⑥ ICT教育^{※15}の推進や外国籍児童生徒等に対する日本語指導対応、教職員の多忙化解消など、新たな解決していくべき課題も含め、子どもを最優先に考える教育行政を引き続き推進していく必要があります。

※14 特別支援教育支援員とは、教育上特別な支援を必要とする児童生徒に対し、適切な教育(特別支援教育)を行うために配置する専門員のこと。

※15 ICT教育とは、コンピュータやインターネットなどの情報通信技術を活用して行う教育のこと。

【主な取り組み(主要事業)】

3-1-1 教育内容・指導の充実

- ①確かな学力を身に付けられるよう、授業の改善と学習習慣の育成に努めるとともに、社会体験や職場体験を通して生きる力の養成に努めます。また、教職員の多忙化を解消するための調査・研究を行い、対策に努めます。

3-1-2 心の教育の充実

- ①他人を尊重しいたわることができるよう、道徳性の育成に努めます。また、相談体制の充実を図り、心の健康が保たれる環境をつくります。

3-1-3 健康教育・学校給食の充実

- ①心身ともに健康で活力ある生活を送ることが出来るよう、自ら進んで健康・体力づくりに励む子どもたちの育成に努めます。
- ②栄養バランスの取れた安全でおいしい学校給食を提供します。

3-1-4 特別支援教育の充実

- ①特別支援教育支援員の適切な配置により、特別な支援を要する子どもが安心して学校に通える環境づくりを推進します。

3-1-5 情報化・国際化に対応する教育の推進

- ①ICT教育環境の充実に向けて計画的な整備を行い、情報教育の推進に努めます。
- ②子どもたちが正しい情報活用能力を身につけることができるよう、情報モラル等に関わる指導の充実に努めます。
- ③国際化に対応した英語教育をはじめ、国際理解教育を推進します。

3-1-6 幼保小中連携の推進

- ①子どもたちの進学等に伴う環境変化への対応を図るため、幼保小中連携を推進します。

3-1-7 学校施設・設備の整備・充実、安全の確保

- ①子どもたちが安心して学習できる環境を整備するため、防災機能の強化や老朽化対策などの施設整備の充実に努めていきます。
- ②通学路の安全対策や不審者対策など、関係機関や地域と連携して取り組みます。

3-1-8 家庭・地域との連携

- ①学校評価制度を充実するとともに、コミュニティ・スクール^{※16}的な取り組みを検討し、地域や家庭との連携を推進します。

【関連する個別計画】

- おいらせ町の学校教育【学校教育指導の方針と重点】

※16 コミュニティ・スクールとは、学校と保護者や地域の方がともに知恵を出し合い、学校運営に意見を反映させることで、「地域とともにある学校づくり」を進める法律に基づいた仕組みのこと。

3-2 生きる力を育む学びの充実

【施策の方向性】

- ①子どもたちがふるさとおいらせ町に対する誇りと愛着をもち、生きる力を育むために、学校・家庭・地域が連携して多様な学ぶ機会の充実と基盤の整備に努めます。
- ②主体的な学びと、学びの成果を生かした社会参加活動を支援し、生きがいをもてる環境づくりを推進します。

【担当部署】 社会教育・体育課

【施策の成果指標】

指 標	現 状 値	目 標 値
①青少年の体験活動参加者数	1,161人 (2016年)	1,500人 (2022年)
②出前講座による学習者数	2,164人 (2017年)	2,500人 (2022年)
③生涯学習フェスティバル参加者数	4,899人 (2017年)	6,000人 (2022年)
④目的やテーマを持って学習活動をしている割合	15.2% (2017年)	30.0% (2022年)
⑤図書館入館者数	31,561人 (2017年)	35,000人 (2022年)

【現状と課題】

- ① 青少年育成町民会議では、声かけ運動による巡回指導をはじめ、年間を通じて様々な活動を実施していますが、学校や関係機関と密接に連携しながら、より効果的な活動を展開する必要があります。
- ② 単位子ども会の減少や子ども体験活動への参加者数の減少など、子どもを地域で育てる環境が変化しており、今後、学校・家庭・地域が連携して子どもの成長を支える仕組みづくりを考える必要があります。
- ③ おいらせの学びカレッジでは、著名な講師陣を招いての「一般講座」、趣味・教養を学ぶ「専門講座」、現代的課題を捉えた「特別講座」、全141のメニューによる「出前講座」を関係課と連携しながら実施し、学習機会の充実に努めています。今後も、さらに地域課題を解決するための主体的な学びや対話の場を提供していく必要があります。
- ④ 生涯学習フェスティバルでは、町民の日頃の文化・芸術・学習活動を披露する場にとどまらず、多くの町民の主体的な社会参加活動の場となっています。今後も、子どもからお年寄りまで町民一人ひとりが輝き、元気で明るいおいらせ町へつながる取組みとして展開していく必要があります。

- ⑤ 生涯学習の拠点となる公民館は町内に3箇所あり、地域住民の学習活動の場として活用されています。しかし、老朽化が進んでいる施設もあり課題となっています。今後は、効率的で効果的な社会教育施設の管理運営をするため、民間への業務委託や指定管理者制度の導入など、民間活力の活用を検討する必要があります。

【主な取り組み(主要事業)】

3-2-1 未来を担う人財の育成

- ①未来を担う青少年の健全育成のため、保護者や関係機関・団体と連携して各種活動を展開します。
- ②未来を担う青少年が、郷土への誇りや愛着をもち、将来のおいらせ町を支える人財となってもらうために、住民と行政が連携し地域全体で多様な体験活動機会の充実を図ります。
- ③おいらせ町子ども読書活動推進計画に基づき、図書館を中心に家庭・学校・関係団体が連携を強化し、子どもの読書に親しむ機会や読書環境の整備・充実など、子どもの読書活動を推進します。
- ④教育の出発点である家庭の教育力を高めるため、学校や家庭教育支援チームなどと連携し、地域ぐるみの家庭教育支援の充実を図ります。
- ⑤学校・家庭・地域が連携し地域全体で子どもの学びや成長を支え、地域を創生する仕組み「地域学校協働活動^{※17}」を検討します。

3-2-2 生涯を通じた学びと社会参加活動の推進

- ①地域の様々な課題を解決するため、関係団体と連携したおいらせの学びカレッジ等により、一人ひとりの主体的な学びや対話の場を提供します。
- ②町民一人ひとりが生きがいをもち、いきいきと生活していくために、出前講座の講師や生涯学習フェスティバルへの主体的な参加など、学びの成果を生かした社会参加活動を推進します。

3-2-3 社会教育推進のための基盤整備

- ①主体的な学びの機会を充実するため、社会教育推進組織の機能の強化を図るとともに、関係団体との連携強化を図ります。
- ②町民の学習活動の場である公民館、みなくる館、図書館、大山将棋記念館の連携強化と、効率的で効果的な管理運営を図るため、必要に応じた改修等を実施しながら、民間への業務委託や指定管理者制度の導入など、民間活力の活用を検討します。
- ③町民の主体的な学びを支援する役割である職員や地域活動実践者等への各種研修機会を充実し、資質の向上を図ります。
- ④社会教育関係団体やボランティアの自主・自立した活動を推進し、そのための活動を支援します。

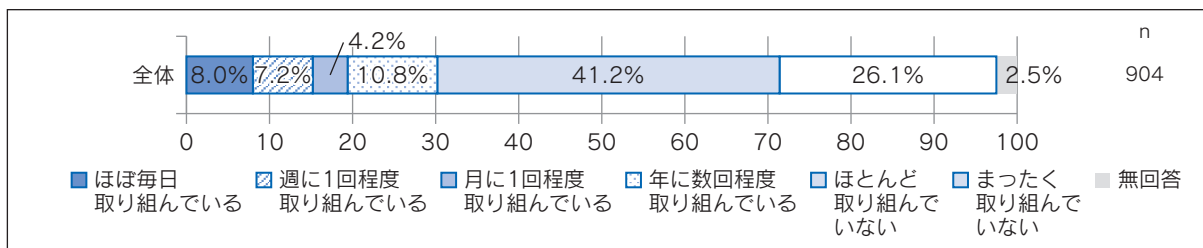
※17 地域学校協働活動とは、幅広い地域住民や企業・団体等の参画により、地域と学校が連携・協働して、学びによるまちづくり、地域人材育成、郷土学習、放課後や土曜日等における学習体験・活動など、地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支え、地域を創生する活動のこと。

【関連する個別計画】

- 第2次おいらせ町社会教育中期計画(2015-2019)
- おいらせ町子ども読書活動推進計画(2018-2022)

【関連データ】

【目的やテーマを持って学習活動をしている割合※18】



おいらせの学びカレッジ一般講座

※18 「町民意識調査」(2017年9月実施)



生涯学習フェスティバル「みんなのフェスタ」



ブックスタート（絵本と絵本を開く体験をプレゼント）

3-3 文化芸術資源を活用したまちづくりの推進

【施策の方向性】

- ①優れた文化芸術を鑑賞する機会と文化団体等の自主・自立した活動への支援に努めます。
- ②将棋をはじめ、おいらせ町固有の文化芸術資源を活用したまちづくりを推進します。

【担当部署】 社会教育・体育課、政策推進課

【施策の成果指標】

指 標	現 状 値	目 標 値
①文化・芸術活動や施設への満足度	満足13.3% (2017年)	満足30.0% (2022年)
②将棋教室参加者数(延べ人数)	1,290人 (2017年)	1,400人 (2022年)

【現状と課題】

- ① 当町は、小中学生を対象とした芸術鑑賞事業を行っており、子どもたちが優れた芸術に触れる機会と創造力を育む学習活動を展開しています。また、文化芸術活動を行う団体が多く、町民による活動が活発に行われていますが、今後は、町民の自主・自立した活動を展開するための支援方法を検討する必要があります。
- ② 当町の特色ある将棋によるまちづくりを推進するため、全国将棋祭りをはじめ、大山将棋記念館を拠点とした各種将棋大会や将棋教室を、年間を通して開催しています。今後も、当町ならではの将棋事業を展開するための愛好者や指導者、将棋団体の育成・支援を進める必要があります。
- ③ 町民の一体感を醸成し郷土愛を深めるため、平成24年度に「おいらせ音頭」を制作し、町内の祭りやイベントの際に披露しています。今後も町民の一体感を醸成するため、おいらせ音頭の普及促進が必要です。

【主な取り組み(主要事業)】

3-3-1 個性あふれる文化芸術の創造と継承

- ①芸術鑑賞事業等により、子どもたちが優れた文化芸術に触れる機会を通じ、豊かな創造力を育みます。また、より多くの町民へおいらせ音頭を普及するなど、郷土愛を深めるための文化活動の充実に努めます。
- ②個性あふれる文化芸術の創造と継承のため、文化芸術活動を行う団体の自主・自立した活動への支援と、文化に関する表彰などによる人財育成に努めます。

3-3-2 将棋によるまちづくりの推進

- ①当町の特色ある将棋によるまちづくりを推進するため、大山将棋記念館を拠点に町内外に情報発信を行い、将棋団体や指導者、愛好者との連携を強化し、子どもへの将棋の普及奨励・底辺拡大、人財育成に努めます。

【関連する個別計画】

- 第2次おいらせ町社会教育中期計画(2015-2019)



全国将棋祭りの子ども人間将棋

3-4 次代へ伝える文化財の保存・活用

【施策の方向性】

- ① 貴重な文化財を保護・保存し、住民との協働により管理・活用することで郷土愛を育む環境づくりを行います。
- ② 郷土芸能団体と連携し、郷土芸能の保存と継承を推進します。

【担当部署】 社会教育・体育課

【施策の成果指標】

指 標	現 状 値	目 標 値
①おいらせ阿光坊古墳館入館者数	4,502人 (2017年)	6,000人 (2022年)
②阿光坊古墳群保存会員数	30人 (2017年)	増加 (2022年)
③町内の民俗芸能数	7芸能 (2017年)	維持 (2022年)

【現状と課題】

- ① 各種開発へ対応するため、埋蔵文化財包蔵地の周知徹底を引き続き行う必要があります。
- ② 文化的価値の高い資料を身近でみることのできる史跡阿光坊古墳群や、おいらせ阿光坊古墳館を適切に管理し、多様な学習機会を提供するなど、住民との協働により文化財を活用していく必要があります。
- ③ 百石えんぶりや本村鶏舞、日ヶ久保虎舞をはじめとした郷土芸能が継承されていますが、指導者の高齢化や後継者不足が深刻化してきています。この郷土芸能をしっかりと継承していくために、郷土芸能団体を支援していくことが必要です。

【主な取り組み(主要事業)】

3-4-1 文化財の保護と活用

- ①関係機関と連携しながら、文化財の計画的な調査・記録やパトロールなどにより、文化財の保護・保存に努めます。
- ②史跡阿光坊古墳群やおいらせ阿光坊古墳館を適切に管理するとともに、町内外への情報発信を工夫しながら運営し、文化財の活用に努めます。
- ③貴重な文化財に対する町民の理解と郷土愛を育むために、阿光坊古墳群保存会への支援をはじめ、地域住民との協働による史跡の整備・活用に努めます。

3-4-2 郷土芸能の保存と継承

- ①郷土芸能団体と連携しながら、子どもの郷土芸能活動を推進し、指導者や後継者の育成を支援することで郷土芸能を後世に継承します。

【関連する個別計画】

- 第2次おいらせ町社会教育中期計画(2015-2019)



おいらせ阿光坊古墳館(2017年3月10日開館)

3-5 スポーツ・レクリエーション活動の促進

【施策の方向性】

- ①子ども（幼児・小学生・中学生）の体力向上を目指します。
- ②成人の生涯にわたる豊かなスポーツ活動を推進します。
- ③スポーツ施設の充実と利活用を促進します。
- ④競技スポーツの推進に努めます。

【担当部署】 社会教育・体育課

【施策の成果指標】

指 標	現 状 値	目 標 値
①スポーツ施設利用者数	91,183人 (2017年)	100,000人 (2022年)
②スポーツ教室参加者数	561人 (2017年)	600人 (2022年)
③日常的にスポーツ活動に取り組んでいない割合(ほとんど・まったくの合計)	81.9% (2017年)	50.0% (2022年)

【現状と課題】

- ① 当町では、いちようマラソン大会や町民駅伝大会を毎年開催しているほか、全国将棋祭り与健康祭りとの併催で「ニュースポーツ体験会」を開催するなど、充実したスポーツイベントを実施しています。
- ② 健康増進事業と連携し、健活ポイント対象のスポーツイベントを開催するなど、町民がスポーツに親しむ機会づくりに取り組んでいます。
- ③ 冬期間に屋外スポーツのできる環境が少なくなるため、天候に左右されず様々なスポーツを楽しむことができる屋内運動施設の整備促進が求められています。



おいらせ町発祥のニュースポーツ! ファイン・ボール

【主な取り組み(主要事業)】

3-5-1 スポーツ・レクリエーション環境の整備

- ①競技力を向上し、スポーツを楽しめる環境づくりのため、施設整備と老朽化対策を推進するとともに、施設運営の効率化を検討します。
- ②天候に左右されず冬期間でもスポーツ活動ができる全天候型屋内運動施設の整備を推進します。

3-5-2 健康づくりにつながるスポーツ活動の推進

- ①健活ポイントがもらえるイベントの開催など、健康増進につながるスポーツ活動を増やし、参加者が楽しんで健康づくりを行える習慣づくりを促進します。
- ②町民プール施設を学校授業で活用するほか、一般向けの健康教室を開催します。

3-5-3 各種団体の支援

- ①スポーツ活動を行う各種団体の活動支援を継続して行うとともに、指導者の確保・養成を支援します。

3-5-4 誰もが楽しめるスポーツ活動の推進

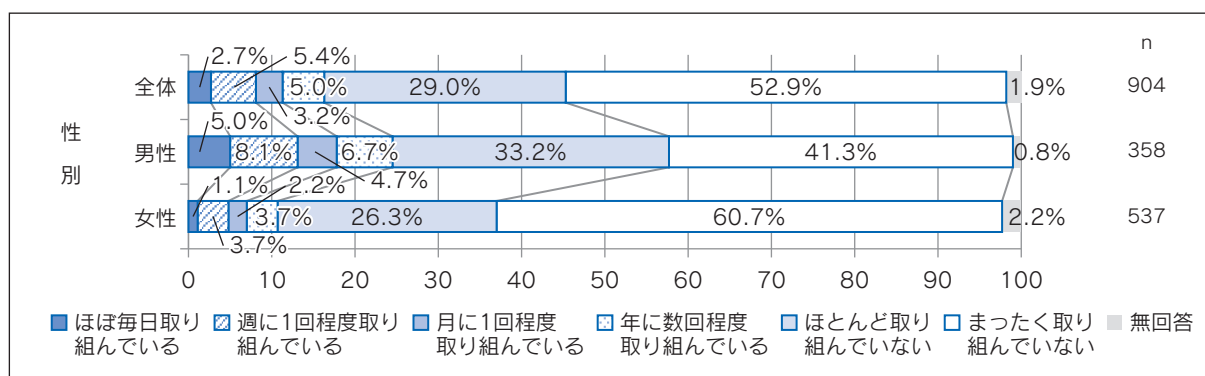
- ①年齢や性別に関係なく、誰もが楽しめるニュースポーツの普及を図るとともに、スポーツをやりたいと思っている人が一歩踏み出せるような団体やサークル活動の情報提供など、情報発信の工夫をします。

【関連する個別計画】

- おいらせ町スポーツ推進計画(2017-2021)

【関連データ】

【日常的にスポーツ活動に取り組んでいる割合※19】



※19 「町民意識調査」(2017年9月実施)



おいらせ町民プール(愛称:おいらのプール)



学校給食センター